

熊本地震の遺構 5 2カ所を整備

熊本県は2016年4月の熊本地震を後世に伝える「震災ミュージアム」の基本計画案を発表しました。地表に現れた断層などの熊本県内5 2カ所を震災遺構として整備し、見学者が広域的に巡回できる「回廊形式」にするとのことです。そのうちの一つには、大きな被害を受け、DuMA/CSOも所属する東海大学の阿蘇キャンパス（南阿蘇村）が含まれる事となりました。さらにこの震災ミュージアムには、甚大な被害の出た益城町の断層や、西原村の曲がった道路の柵なども含まれるとの事です。ちなみに見学ルートには、熊本市出身の尾田栄一郎さんが描く人気漫画「ONE PIECE（ワンピース）」のキャラクター像計9体を設置し、修学旅行や国内外からの誘客も目指すとしています。

熊本地震は大きな被害を出してしまいましたが、このような形で、後世に正しく地震災害の記憶を伝えていくのは価値がある事と考えます。なおこのミュージアムの最初のオープンは2020年春を目指しているとの事です。



液状化、側方流動による地盤災害であった 校舎は耐震補強されており、倒壊するものはなかった

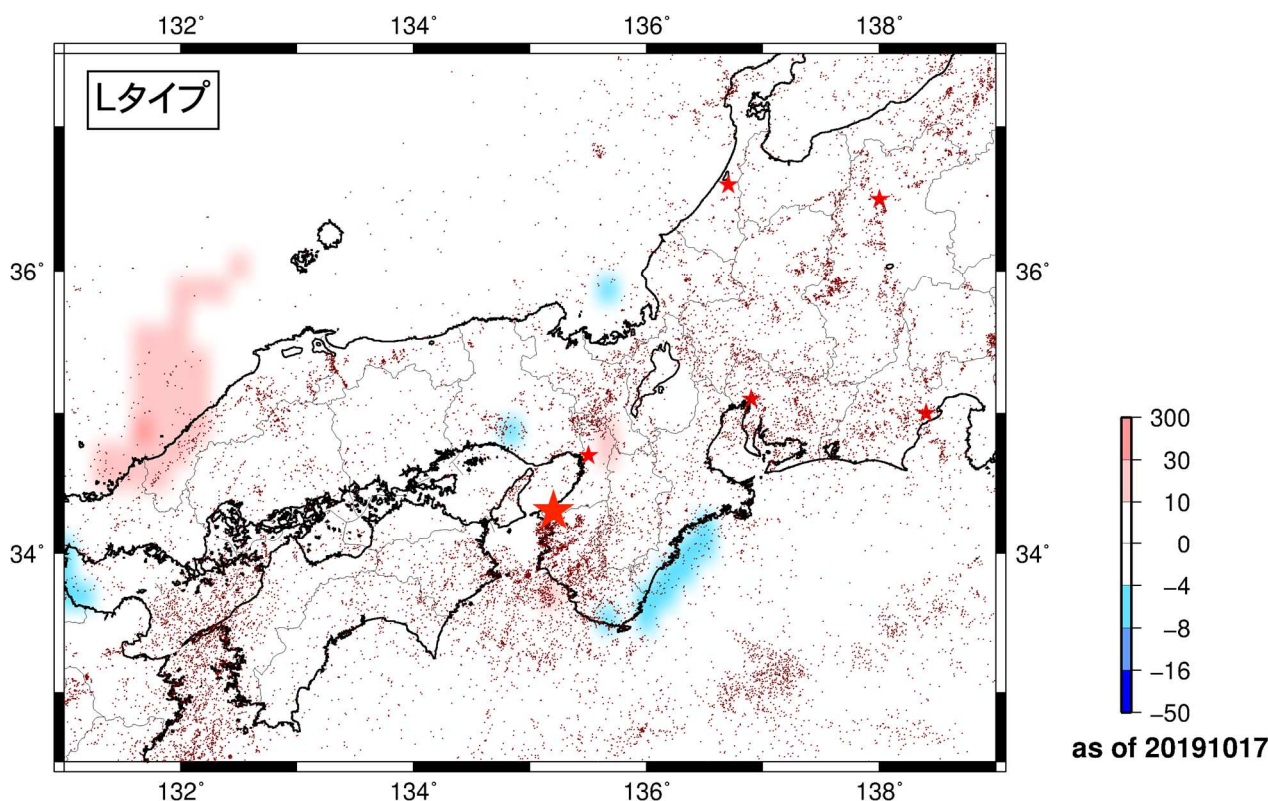
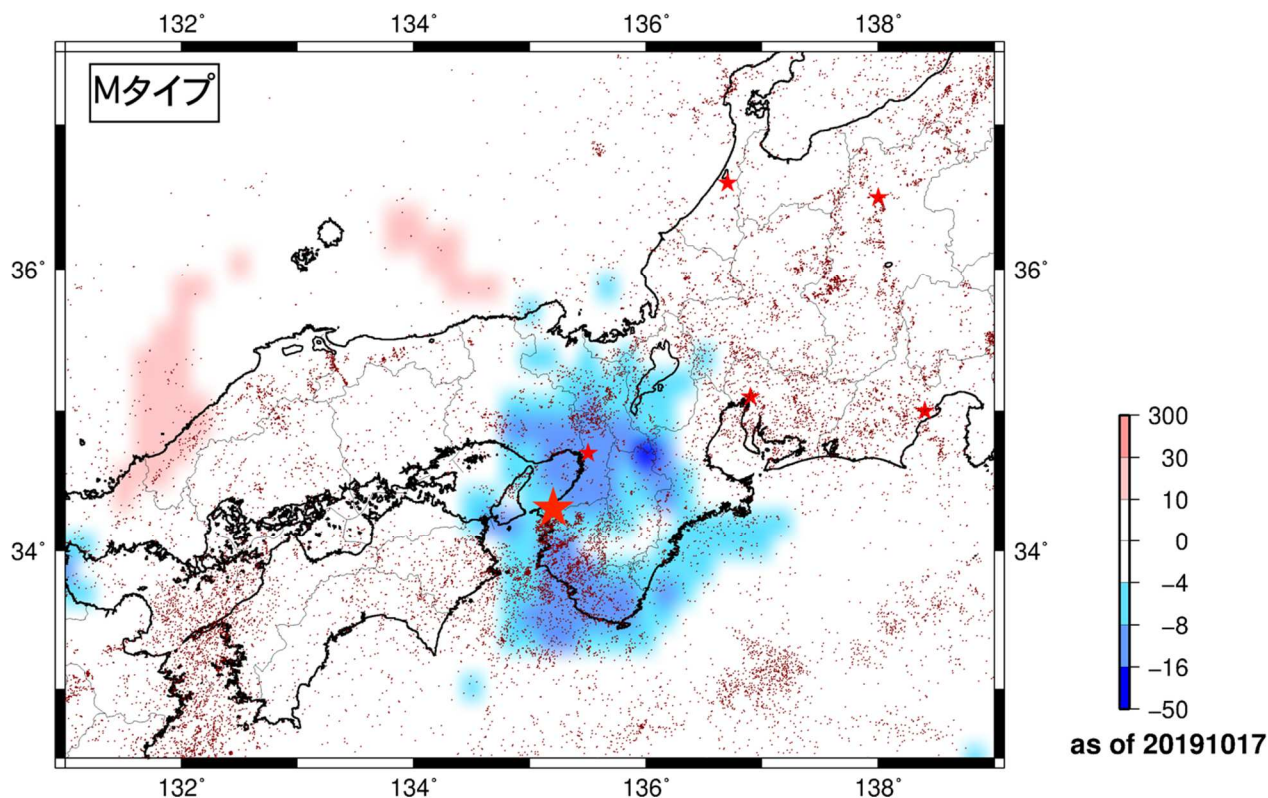
中部・近畿・中国・四国地方の地下天気図®

9月9日のニュースレターに引き続き、中部地方から中国・四国地方にかけての地下天気図をお示しします。近畿地方に非常に顕著な地震活動静穏化の異常が出現し、その異常が最大になった時に昨年大阪北部地震（2018年6月18日）が発生しました。

これはそれまでの多くの地下天気図の異常とは異なり、異常が解消してから地震が発生したのではなく、静穏化が進んだ段階（静穏化の途中）で発生した地震でした。これまでの解析では、そのような例は1割から2割程度と思われます。

その後、一旦は静穏化は解消に向かいましたが、Mタイプでは比較的大きな静穏化の異常が続いている事を報告させて頂きました。

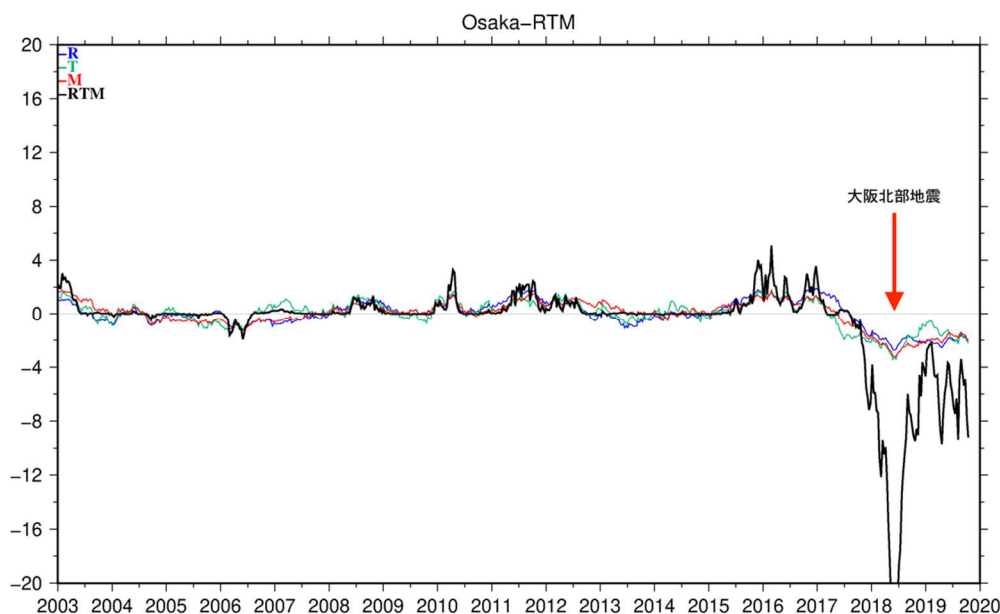
今月の解析でもMタイプでは静穏化の異常（青い所）が比較的大きな範囲に広がっている事がわかります。



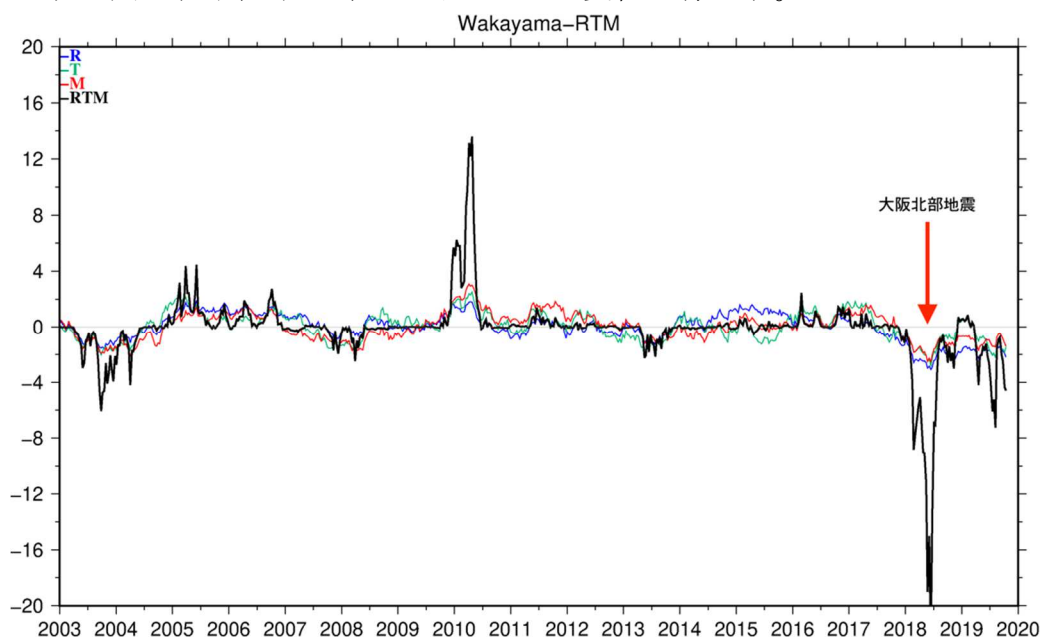
次にお示しする図は地下天気図における時間変化のグラフ（RTM 変化曲線）です。大阪北部地震の震源地における変化で、地震発生時に極めて顕著な地震活動静穏化が発生していた事がわ



かります。そしてその後は、消長を繰り返し推移してはいますが、大阪北部地震前のような顕著な静穏化では無い事も見てとれます。



次にお示しする図は和歌山市近郊における RTM 変化曲線です。



確かに現在でも値がマイナスとなり、静穏化が続いていますが、大阪北部地震の前ほどの大きな異常では無いこともわかります。現在は RTM の値がマイナス 4 およびマイナス 8 で色を変えていますが、色の付け方は DuMA が任意に決めたもので、たとえば色をマイナス 6 およびマイナス 12 で変えれば見え方が違ってきます。そのため、この RTM 時間変化曲線が静穏化 (= 異常) の実際の程度を知るために重要となるのです。現在の M タイプ地下天気図に見られる近畿地方の異常は大阪北部地震前とは少し性質が異なっていると考えています。